

ちいさな証

祈りの力

ゲルスタ・ウェンディ

スイス日本語福音キリスト教会会員



20年間日本で働いた後、続いてOMFという宣教団体の下で今はスイスで働いております。私の活動には二つの部分があります。

その一つはスイスにいる外国人への働きです。（難民に仕え伝道する事そして日本語教会で奉仕をさせていただくこと）

もう一つは「Mobilisation」という働きです。「モビライゼーション」とは何でしょうかというと、「教会とクリスチャン一人一人に神様の全世界的なご計画を知らせ、それにどうやって参加できるのかを教え、その聖なる責任を担うように励まし、導く事」です。

以前から難民の方たちの間で働いてきたので、コロナ禍の間はもっと知っている方たちを支え励まし、そしてできるだけ祈りと聖書の話もするように心がけています。

スイス日本語福音キリスト教会でどうやって奉仕できるのかという事は少しずつ神様が導いてくださると思っています。Zoomなどを使う事を通して、色んな可能性が開けてきました。

ただコロナ禍の間の「モビライゼーション」は難しいです！日曜学校やティーンズ・グループ、礼拝やシニア・グループへの訪問は無理で、教会の人たちと会えなければ、どうやってインフォメーションとモチベーションを与えられるでしょう？！「神様、導いてください！」と祈りました。そんなとき、友人がとても良いブログのリンクを送ってくれました。

(https://thinktheology.co.uk/blog/article/the_corona_virus_experiment)

その中には、昔のOMFの宣教師、ジェームズ・フレーザー師についての話がありました。フレーザー師はヒマラヤの近くに住んでいる「Lisu」という中国の民族に福音を伝えようとしました。冬でも平地にある村々は普段通りに訪問出来たけれど、山にある村々を訪問するのは大雪のせいでもとても時間がかかり、危険も伴い、大変でした。フレーザー師は神様に文句を言いました。「なんで雪

を少なくしてくれないの？！僕はどうやって山に住んで居るクリスチャン達のケアができるでしょう？」でも雪も神様のご計画ではないかと思うようになったので、フレーザー師の考えが変わりました。文句を言う代わりに、「祈りの実験」をすることに決めたのです！

平地の村は普段通りに訪問しましたが、山の村まで登る時間と力の代わりに祈りに専念する事にしましたのです！春が来たとき、フレーザー師は実験の結果を楽しみにして待っていました。やっと山の村々を再訪できるようになった時、すごい事がわかりました！定期的に訪問した平地のクリスチャンたちよりも、訪問される代わりに一生懸命に祈られた山のクリスチャンたちの方が霊的に成長していたのです！

この記事を読んだ時、自分の働きに当てはめてみました。今のところ、実際に教会を訪問するのは無理であっても、すでに蒔かれた「種」が芽を出し、成長するように祈るのが今の私の働きの大変な部分だと神様が私に示してくださりました。

今年の一にもたれた「ユティカ」というユース・キャンプの宣教の夕べからどうか刈り取りがありますように！スイスの教会とヨーロッパの日本人のクリスチャンたちが神様にすべてを捧げ、全世界のための責任を担いますように！願わくは、また実際に教会を訪問できますように。祈りの力について学んできた事を忘れずに働き続けたいと思います。



ルカ10：2
「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださいるように祈りなさい。」



2020年のユティカでヨーロッパに住むユースたちとともに。